

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 山本 孝文

研究課題		古代東アジアの地域間交渉に関わる遺構・遺物の調査研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	研究の最終目的は、唐代の中国と、同時代のユーラシア北方地域という二つの軸を設定し、両地域を介して往来した文化の痕跡（遺構・遺物）を選定して分析することにより、古代東アジア諸国の国家形成期における相互交流の実態を跡付けることである。この目的にアプローチするための一つの作業として、本研究では横穴式埋葬施設を中心とする墓制や、帯金具などの金属製装身具、馬具を中心とした馬の文化、およびそれらの遺物に施された唐草文をはじめとする文様意匠の実態調査を行い、その共通性と変容から各地の相関関係、ひいては集団・文化移動の実態を検討する。さらに、そこから特定社会の国家形成・発展に外的要因が及ぼした影響を評価する。
	研究の結果	上記の目的に関連して、それぞれ以下の成果を公表した。 ① 古代東アジアの国家形成期に共通して見られ、地域間交渉を考える上で重要な墓制である横穴式石室に関しては、「横穴式石室の築造技法からみた百済と湖南地方」および「韓国における横穴式石室研究の論点と構造・技術系統論」としてこれまでの研究観点を提示することができた。 ② 古代東アジアの身分秩序表現の実態を示す服飾および帯金具に関しては、「古代東アジアモード―出土帯金具に見るファッションの流行とアレンジ―」「帯金具にみる文様・技法の変遷と地域間交渉―獅嚙文帯金具を素材に―」の2本の学会発表を行い、討論によって今後の論文執筆の道筋を得ることができた。 ③ 日本列島の渡来文化の中核である馬および馬文化に関しては、「古代東国の渡来文化と馬文化」の発表と「北信の渡来系文物と馬文化」の執筆により、今後の研究の展望を得た。 その他、古代窯業や日本における百済系渡来文化に関する研究発表・共著刊行を通し、東アジア地域間交渉に関わる研究成果を公表することができた。
	研究の考察・反省	予定していたテーマに関し、計画通りの研究発表・成果物の公表をすることができた。唐草文の系譜については成果公表には至らなかったが、資料の種類と数が多いため、引き続き資料収集を行い、成果のまとめの準備を行う。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表 2019.5.11「古代東アジアモード―出土帯金具に見るファッションの流行とアレンジ―」(日本大学史学会 2018年度第4回例会) 日本大学文理学部 2020.1.12「帯金具にみる文様・技法の変遷と地域間交渉―獅嚙文帯金具を素材に―」(第31回東アジア古代史・考古学研究会交流会) 奈良文化財研究所 2020.2.14「古代東国の渡来文化と馬文化」(日本大学史学会 2019年度第5回例会) 日本大学文理学部 2020.2.22「古代韓半島の窯業とその社会的背景」(窯跡研究会・日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)シンポジウム「土器窯と瓦窯の接点」) 立命館大学大阪梅田キャンパス</p> <p>研究成果物 2019.9「横穴式石室の築造技法からみた百済と湖南地方―熊津期百済と栄山江流域の造墓集団―」『国立歴史民俗博物館研究報告』217 2019.11「北信の渡来系文物と馬文化」『馬の考古学』 雄山閣 2019.12『日本の中の百済 本州・四国地域』 忠清南道・忠清南道歴史文化研究院 (共著) 2020.2「韓国における横穴式石室研究の論点と構造・技術系統論」『横穴式石室の研究』 同成社</p>	